

一般社団法人日本宗教信仰復興会議 監修

宗教信仰復興叢書

全7巻

島蘭進 編

〔体裁〕四六判 上製カバー装
〔予価〕3300〜3850円（税10%）

本叢書の特長

宗教信仰復興、スピリチュアリティ、宗教的暴力、仏教の救済思想、イスラームの心と日本、新たな形の共同体……。宗教信仰復興という共通の問題意識から、現代における宗教と信仰の持つ意義を考察する。



執筆者・編者

島蘭進 上智大学グリーンフケア研究所所長。東京大学名誉教授。東京大学卒。筑波大学哲学思想学系研究員、東京外国語大学助手・助教を経て、東京大学大学院人文社会系研究科宗教学専攻専攻教授。専門は近代日本宗教史、宗教理論、死生学、生命倫理。著書に『宗教学の名書30』、『国家神道と日本人』、『日本人の死生観を読む』、『ともに悲嘆を生きて』、『いのちを、つくって、もいいますか』、『日本仏教の社会倫理』、『宗教ってなんだろう？』、『明治大帝の誕生』、『春秋社』、『新宗教を問う』等。

弓山達也 法政大学卒業。大正大学大学院満期退学。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、國學院大学日本文化研究所研究員などを経て、一九九八年より、大正大学講師。准教授、教授を務める。この間、ブダペスト大学日本学専攻専攻教授などを兼務し、二〇一五年より東京工業大学教授。同時に日本宗教学会常務理事、公益財団法人国際宗教学研究所常務理事兼務。専門は宗教学。現代世界における宗教性／靈性をテーマに研究を進める。『天啓のゆくえ』宗教が分派するとき（日本地域社会研究所）、共編著『東日本大震災後の宗教と「ミニニティ」（ハーベスト社）』等、著書多数。

鎌田東二 京都大学名誉教授、上智大学大学院実践宗教学研究科特任教授。同大学グリーンフケア研究所所員。博士（文学、筑波大学）。國學院大学大学院文学研究科博士課程神道学専攻博士課程単位取得退学。著書に『神界のフィールドワーク』霊学と民俗学、命科学専攻博士課程単位取得退学。著書に『身体宇宙誌』講談社学術文庫、『宮沢賢治』銀河鉄道の夜』精成』岩波現代文庫、『靈性の文学』聖地感覚 角川ソフィア文庫、『日本人は死んだらどこへ行くのか』PHP新書、『現代神道論』世直しの思想 春秋社、『世阿弥』身心変容技法の思想『言葉の思想』青土社、『南方熊楠と宮沢賢治』平凡社新書、『ケアの時代』負の感情』とのつき合い方』淡交社、編著『身心変容技法シリーズ』全3巻等。

水谷周 (社)日本宗教信仰復興会議代表理事、日本ムスリム協会理事、現代イスラーム研究センター理事、日本アラビア語教育学会理事、国際宗教学研究所顧問など。京都大学文学部卒。博士号取得（イスラーム思想史、ユタ大学）。日本における宗教的覚醒とイスラームの深みと広さの啓発に努める。『イスラーム信仰叢書』全10巻、総編集、著、国書刊行会、『イスラーム信仰概論』明石書店、『イスラームの善と悪』平凡社新書、『イスラーム信仰とその基礎概念』晃洋書房、『イスラームの精神生活』日本サウディアアラビア協会、『イスラーム信仰とアラブ』知泉書館、『クルアーン』やさしい和訳』監訳著。訳補完杉本恭一郎、国書刊行会、『黄金期イスラームの徒然草』国書刊行会等。

寺戸淳子 国際ファッション専門学校准教授。主著、主要論文に『ルルド傷病者巡礼の世界』知泉書館、『人間になる』自律の夢から覚める』櫻井義秀編著『宗教とウェルビーイング』幸せの宗教社会学』北海道大学出版会、『市民社会と生命現象』弱さと暴力に向きあう場としての（サルシニ）共同体運動』『政治化する宗教、宗教化する政治』（いま宗教に向きあう4（世界編リ）岩波書店。『彼らが幸せでいられるなら』一声・権利・責任』鈴木・磯前』佐藤編『死者／生者』論一傾聴・鎮魂・翻訳』ペリカン社。『証し』と『開示』―聖地ルルドの映像化にみる「苦しむ人々」の伝え方』新井・岩谷・葛西編『映像にやどる宗教、宗教をうつす映像』せりか書房。

一般社団法人日本宗教信仰復興会議 監修

宗教信仰復興叢書

島蘭進 編

全7巻

混乱を極める現代日本社会に

信仰と宗教の根源的意味を問い直す、

画期的な叢書が誕生!!

取扱店

氏名

電話

宗教信仰復興叢書 全7巻	1 宗教信仰復興と現代社会	978-4-336-07210-8	冊
	2 生きる力とスピリチュアリティ	978-4-336-07211-5	冊
	3 霊的暴力と宗教の力動—オウム真理教事件と文学的想像力	978-4-336-07212-2	冊
	4 現代日本の在家仏教運動の革新	978-4-336-07213-9	冊
	5 絶対主の覚知と誓約—イスラームのこころと日本	978-4-336-07214-6	冊
	6 被る人々—ラルシュとジャン・パニエ	978-4-336-07215-3	冊
	7 現代日本の宗教信仰とスピリチュアリティ	978-4-336-07216-0	冊

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15 TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427
https://www.kokusho.co.jp E-mail: info@kokusho.co.jp

国書刊行会

発刊にあたって

二〇二〇年夏、世界と日本がコロナ騒動で揺れ動く中、一般社団法人日本宗教信仰復興会議は設立された。その大きな背景としては、戦後の日本では宗教信仰が憂慮すべきほどまでに低調になったという事態がある。

戦前の軍国主義への反省の面もあったが、同時に戦後社会は極端な経済偏重の時代になった。現世利益を祈願する新宗教が教勢伸長を誇ったものの社会の敬意を得ることができず、オウム真理教の事件が勃発して、さらに宗教を遠ざけた。

その間、人心の動揺と確たる信条や道徳観の喪失が指摘され、さまざまな事件が目立つ自殺多発国となった。

他方相次ぐ天災や原発事故は、慰霊・追悼の意味、祭りの力、宗教施設や宗教者の意義に目を開かせることとなった。またそれは命の尊厳に光を当てると共に、人の

力と近代科学文明の限界を示し、新たに心の癒しの問題に関心が集まることとなった。

こうした戦後社会の迷走に猛省が促され、宗教信仰の復興を期する状況になっているとも見える。宗教信仰は人間の持つ生来の半面でもある。祈らない人はいないのだ。この半面が素直にもっと育成され涵養される教育と社会のあり方が求められているとも言える。それは人間復興でもある。しかし長年月に渉り疎遠にしてきた影響もあり、この問題はほとんど組織的には正面から取り組まれていないのが実情ではないだろうか。

本法人はこのような危機意識から、関連の動向に分析のメスを入れて確かな把握に努めると共に、信仰の現場で日々諸問題に直面している活動家たちの貴重な観察と思索の声も記録し、叢書として世に問うこととした。

各巻の概要

① 島菌進編 『宗教信仰復興と現代社会』

世俗的合理主義がますます勢いを強めているように見えるが、超越性や規範性を失ったかに見える精神状況への不満も大きい。こうしたなかで宗教信仰復興への動きはどのような形で見出されるのか。主に日本を念頭に考えていく。本叢書の提起する諸課題を巡る基本的な論考集、当法人理事の座談会など。

② 弓山達也著 『生きる力とスピリチュアリティ』

本書は東日本大震災の学生ボランティアや後方支援の地域住民の活動を軸に、市井の人々の「生きる意味」の探求、「生きる力」の涵養を「スピリチュアリティ」ととらえ、その姿を筆者自らが現場に身を投じて追っていく。また危機と宗教性を巡り、被災者や障害児のママさんたちの地域活動、大学生の被災地でのボランティア活動など、「生きる力」、「生きる意味」、「いのち」とは何か問う。

③ 鎌田東二著 『霊的暴力と宗教の力動』

——オウム真理教事件と文学的想像力

宗教的暴力の根幹にある体験や修行の負の局面を考察し、それがナシヨナリズムや国家的暴力と結びつくとういうことが起るのか？ それに向き合う個の文学的想像力と未来への希望を具体的な作家と作品分析を通して考えていく。

④ 島菌進著 『現代日本の在家仏教運動の革新』

二〇世紀の日本で法華・日蓮系の在家仏教運動が、大きく勢力を伸ばした理由について考える。霊友会系の諸教団と創価学会が典型的だが、現世救済思想という点にその特徴があるが、その仏教の救済思想上の革新について考察する。

⑤ 水谷周著 『絶対主の覚知と誓約——イスラームのこころと日本』

日本の宗教信仰復興に、イスラームは貢献できるのか。第一部で生きがいや死生観を論じる。第二部では「イスラームのこころ」の中核として、絶対主の覚知と誓約を平易に解説する。それは安寧の心境である。

⑥ 寺戸淳子著 『被る人々——ラルシュとジャン・パニエ』

知的な障害がある人とボランティアの若者が共に生活する「ラルシュ」共同体に、現代社会から排除されている「被る」経験（生命、暴力、「友愛」を）に「共に向きあう場」としての意義があることを論じる。

⑦ 鎌田東二編 『現代日本の宗教信仰とスピリチュアリティ』

——スピリチュアリティ

二十一世紀になって、気候変動による自然災害の多発とも連動するかのようになり、宗教が関わる事件や紛争も多発している。世界は激しい「経済戦争」や「資源争奪」の争いの中にあり、さまざまなレベルでの格差や差別も生み出されて来ている。本巻では、そうした現代社会の諸問題を見すえながら、現代日本の宗教信仰とスピリチュアリティを探っていく。多様な執筆陣と関係者の座談会など。

